

はじめに

Unless a grain of wheat falls into the earth and dies, it remains alone;
but if it dies, it bears much fruit. —John 12 : 24, New Testament

1粒の麦は何もなければ1粒のままである。地に落ちて死ぬことで、多くの実を結ぶ
—ヨハネによる福音書 12章24節, 新約聖書

あなたが経験してきた出会い、これから経験するたくさんのお出会い。これらは時に大きなうねりとなります。

2014年6月、米国シンシナティの私のもとに、実験医学誌編集部の方から一通のメールが届きました。留学に悩める方に、私の視点で留学について解説しエールを送る短期連載依頼のお話でした。私自身、留学では家族を巻き込んでいろいろな失敗をしました。私が学んだことを、留学を考える方に活かしてもらえればと、2つ返事でお受けしました。

しかし、時間が経つにつれ、たいへんなことを引き受けてしまったことに気づきました。考えてみると、留学は、ひとりの経験知では補いきれない多様性があります。私の体験や考えは、本当に役に立つ留学情報となるだろうか。実際、私の留学を思い返すと、知人や本から得た情報は、私のケースに当てはまらないものも多く、誤認識はトラブルの原因となりました。私は頭を抱えました。



どうすれば、留学の多様性をふまえて、経験知を役立てていただけるだろう？ 私は、UJAの世話人の方々に相談しました。7月、40回を超える大陸を越えたやりとりのなか、いろいろなアイデアがスパークし、私たちはとうとう答えを見つけました。答えは、私たち研究者自身のなかにはありました。一人ひとりの留学のケースに当てはまる留学ガイド。——留学を体験した仲間の経験知を集め、伝えていくシステムをつくろう。それにより、留学の各ステップについて、幅広いケースに触れていただき、ご自身に還元してもらおう。場所と時間を越

えて、研究者のキャリアを支援していこう！

私たちは走りだしました。そうして始まったのが、実験医学誌の連載「留学のすゝめ！」、そしてUJAウェブコンテンツ「Finding Our Way – 留学体験記 –」でした。UJA編集部のメンバーで編集・執筆した留学のノウハウ記事は全8回にわたり実験医学誌上に連載され、ウェブコンテンツに寄せられた留学体験記は約2年半の間に100を超えました。留学したての研究者からノーベル賞受賞者の山中伸弥先生まで、留学体験者の活きた情報 – 知の種 – が世界中から集まったのです。



実験医学誌の連載を終えた2015年12月、UJA編集部のメンバーは神戸で開催された日本分子生物学会年会・日本生化学会大会合同大会に集結しました。「留学のすゝめ」と題したフォーラム企画を主催し、今まさに留学を希望している方々が何に悩んでいるのか、一人ひとりにヒアリングをしました。「留学先はどうやって選ぶのか」「留学先からオファーをもらうにはどうすればよいのか」「留学先での子育てはどうすればいいのか」「どんな助成金があるのか」「留学後のキャリアはどう切り拓くのか」——留学体験記が百人百様であるように、彼ら・彼女らの悩みも百人百様でした。そのなかには、連載時には解説しきれなかったこともありました。

私たちが次にすべきことは、すぐに決まりました。実験医学誌の連載、留学体験記を1つにまとめ、より多くの留学希望者の「悩み」に応えるチャプターを加えた単行本をつくりあげるべく、私たちは再び動き出しました。理系大学院留学を支援する「カガクシャ・ネット」の武田さん、杉村さんにもご賛同いただき、本書『研究留学のすゝめ！』の企画がスタートしました。東京、大阪、愛媛、兵庫、神奈川、ボストン、アナーバー、シンシナティ、サンディエゴ、サンフランシスコ、パドヴァ（イタリア）……各都市をつないだビデオ会議で幾多の編集会議を重ね、ついに本書が誕生しました。



1つの植物の種からは多くの実がなります。私たちの“知の種”も同じです。知の種はあなたに芽吹き、あなたの土壌に合わせた花を咲かせ、たくさんの実を結び、あなたの糧となります。それは、留学の各場面を多角的に考え選択する力、困難をチャンスに変える糧となります。

先輩の方々をはじめ私たちのサイエンスとあなたへの思いを載せた本書から、あなたのなかに多くの知の種が芽生え、留学の決断や研究生活に活かし、あなたが人生を歩む力となれば、これほど嬉しいことはありません。私たちは、世界中から、時を超えて、心からあなたを応援しています。本書を手にとってくださいありがとうございます。本書を通してあなたに出会えたことに感謝いたします。

あなたには数々の出会いと無限の可能性、選択肢があります。あなたの通った道に、花が咲きたくさんの実がなります。そして得られた知の種は、また別の方に渡すことで、そこで芽吹くことができるのです。知の種は、いくら渡しても尽きることのない種です。世界中に知の花を咲かせることができます。さあ一緒に旅を始めましょう！

2016年10月

UJA 会長 佐々木敦朗